

総合社会学科の三つの方針（2017年4月1日改定・2018年度入学生より適用）

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

総合社会学科（以下、「本学科」という）では、社会科学を中心とする幅広い教育研究を通して、複雑で多様化する現代社会の諸問題を総合的に理解する力、またその解決に向けて探究・実践する力を身につけ、積極的に社会に働きかけて「ともいき社会」の実現に貢献できる人材（＝「ともいき社会人」）を育成することを教育目標としています。本学科では、上記の教育目標を達成するために必要とされる所定の単位を修得し、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

1. 常に自己を省察し向上しようとする意欲と、複雑で多様化する現代社会の様々な問題や人間行動への強い関心を持ち、その解明や解決に向けて主体的かつ継続的に努力することができる。（自己対峙力＋社会への関心）
2. 社会科学を中心とする幅広い知識と技能を持ち、現代社会の諸問題を総合的視点から理解することができる。（汎用的知力／教養知）
3. 本学科に設置するコースの学びのうち、いずれかの分野に関する専門的知識と技能を持ち、それを現代社会の諸問題の発見や解決に役立てることができる。（汎用的知力／専門知）
4. 地域や組織の一員として、世代や文化の異なる他者に対しても共感的態度と対話力を持ち、協働することができる。（現場実践力）

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、以下のような教育課程、教育方法、教育評価の方針に基づいて教育を行います。

(1)教育課程の編成

1. 複雑で多様化する現代社会の諸問題に対応するため、本学科に、経済・経営、メディア・社会心理、公共政策、観光・地域デザイン、国際文化という5つのコースを設置する。
2. 社会科学の基礎を幅広く学んだ後、所属するコースの履修モデルに沿って、専門性の高い科目を段階的に学べるよう、科目を配置する。
3. 所属するコースの履修モデル以外の科目も履修できる自由度を設ける。それにより、複数分野を組み合わせた学び方も可能となり、自分が取り組もうとする研究対象に多彩な視点からアプローチできる。
4. 問題発見や問題解決に向けた調査・分析力、またコミュニケーション力や情報発信・表現力などを養うため、少人数クラスによる演習・実習等の実践的な科目を設定する。
5. 上記の教育課程を通して身につけた種々の力を実際の社会で活用できるよう、資格取得を含めた就業力育成のための科目および履修プログラムを設置する。

(2)教育方法

1. ゼミ教育を重視し、1年次から4年次まで、すべてのセメスターでゼミ形式の授業を設

定する。ゼミにおける教育指導の方針は以下①～③による。

- ① 1年次はコースごとにゼミを編成し、コースの学びに沿った基礎的なテキストを使用して、汎用的なラーニングスキルやリサーチスキルを涵養する。
 - ② 2年次からは学生が自らの興味関心に応じて、多彩なテーマで開講されているゼミの中から選択できるようにする。その際、本学科の多様性や学際性を活かすため、ゼミ選択を所属コースにより制限することはないが、ミスマッチを防ぐため、あらかじめ各コースの学びと各ゼミの研究テーマとの関連度を示し、ゼミ選択における目安を提供する。
 - ③ ゼミ担当教員は、ゼミ学生の履修指導や就職支援など、担任として種々の面からサポートする。
2. ゼミ以外にも、少人数クラスによる演習・実習等の実践的な授業を多数用意し、現場体験によって得られる学びを重視する。
 3. 講義形式の授業においても、学生との意見交換、グループワーク、コミュニケーションペーパー、等々、できる限り双方向型の方法を取り入れ、学生の主体的かつ能動的な学びを引き出す工夫を行う。

(3)教育評価

学生レベルの評価は、各科目のシラバスに定める到達目標の達成度、本学科で定める学修ベンチマークの達成度、および卒業論文の成果等によって行う。その際、学期ごとの履修状況や学修成果を担任教員がチェックする体制を整え、各時期に応じた適切な指導を行う。

学科レベルの評価は、学科の全学生についての単位修得状況や学修ベンチマークの達成状況などを、継続的・統計的に把握することによって行う。

なお、教育評価に際しては、客観的な評価方法を確立するために効果的なツール（ルーブリックなど）を積極的に取り入れる。また、学生自身による学修成果のふりかえりや担任教員による学修成果の把握に活用できるツール（ラーニング・ポートフォリオなど）を積極的に取り入れる。

Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

(1)求められる人材

学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の中で「ともいき社会人」の育成という目標を掲げており、その実現のために、教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）で定めた教育活動を行っています。この観点から、本学科では、以下の知識・能力・資質および意欲を備えた人を求めます。

1. 高等学校の教育課程（高等学校相当を含む）を幅広く修得している。
2. 複雑で多様化する現代社会の様々な問題や人間行動に関心や好奇心をもち、それらの解決や解明に向けて探究する意欲と向上心をもつ。
3. 本学科に設置するコースの学びのいずれかの分野に特に強い関心と学ぶ意欲をもち、将来、その学びを仕事や生活に活かしたいと考えている。

4. 世代や文化の異なる他者と対話・協働するために必要なコミュニケーション力、すなわち、他者への共感的態度と理解、柔軟な発想、表現や発信などに関する能力を身につけたいと考えている。
5. 地域や組織の一員として、社会の様々な場面で「ともいき社会」の創造に貢献できる人材（＝「ともいき社会人」）になりたいと考えている。

(2) 入学者選抜方法

上記「求められる人材」で挙げた能力や資質・意欲などに対する評価を組み合わせた入試課題を実施する。詳細については入試要項に別途定める。